

アンナプルナ内院トレック報告

期間 2016年10月11日～25日 15日間

参加者 石川 誠 佳子 他



(朝日に輝くアンナプルナ1峰)

はじめに

アンナプルナ1峰の初登頂はモーリス・エルゾークを隊長とするフランス登山隊（隊長モーリス・エルゾークと隊員はルイ・ラシュナル、リオネルテレイ、ガストンレビュファーなど9人）で、トロブギン峠を越えアンナプルナ北氷河にBCを設け、モンスーンの来襲と闘いながら1950年6月3日、隊長エルゾークとルイ・ラシュナルの2人が頂上に立った。

しかし下山は壮絶極まりなく、隊長は凍傷と闘いながら指を1本1本と切り落としながらの下山となった。これによって人類初の標高8091メートルの頂上に足跡を印した。

モーリス・エルゾークが著した『処女峰アンナプルナ』は、世界的名著となりネパールヒマラヤへの関心を一気に高めることとなった。

行動概要

10/11 晴れ



(ナヤプルノチェックポストで)

キャセイ航空で成田 10:45 発-香港-ダッカ経由-カトマンズ
22:00 着ラディソンホテル泊

横浜からYCATを利用して成田空港へ出発は少し遅れ
香港、ダッカを経由してカトマンズ空港へ

現地時間午後10時 日本時間からの時差 Δ 3:15分真夜中で眠い、
直ぐ入国手続きを行いホテルへ空港の外は相変わらず人々が群が
っている。街中は街灯も無く暗いが、以前よりインフラも進み、道
路もアスファルト舗装されていて走りやすい。市街地では2年前

の地震の影響もさほど感じなかったのだが。

しかし、夜中は相変わらず野犬が徘徊しており、昔棒を持って宿へ帰ったことを思い起こさせる。

10/12 晴れ

カトマンズ 10:30 発ポカラ着 11:30 着 午後ホテル・バラヒ着 フリータイム

ホテル8時に出発空港へ、国内便でポカラへ右側の席に座り、窓からヒマラヤの白銀に輝く山並みを見る。ポカラ空港は、5年前に来た時より明らかに空港も整備され街並みも綺麗になっていた。今では国際空港を目指して整備しているとのことだった。

以前はヒッピーが屯していた、ペア湖周辺も道路が整備され、街の中にも土産物屋、食堂が並んでいる。ホテルもプールが整備され、外国人の保養地として人気があり多くの外国人家族が見受けられる。午後はフリータイムで街中を散策し、夜は和食レストラン(ふじやま)で暫らく食べられなくなる和食セットを注文する。



「ヒンコーの洞穴岩の張り出しが凄い」

10/13日 ポカラホテル 7:00 発ーナヤプル経由シワイへ車移動、シワイからジヌーダングダトレック 17:10 着ロッジ泊

ホテルの前から大型バスで現地スタッフ、メンバー、ポーターや荷物など満載して出発、ナヤプルまでは舗装された道路であるが途中から未舗装道路、途中の風景も街中から郊外へ進むと景色が変わり、秋の収穫時期であろう粟、麦、陸稲の刈り入れの風景が所々で見られた。バスに揺られながら高見を増してゆく途中チェックポストで停車し、終点シワイへ 11 時 30 分頃に到着する。



「木ノ間隠れにマチャプチャレの頂が」トサイドトレッキングの時

休憩後準備を整えトレッキングスタート。標高 1760m のジヌーダングダを目指す。徐々に高度を上げて行くが 初日でもあり、調子が出ない、まあピスタリ・ピスタリで皆についてゆく、途中午後3時頃から雨が降り出し、雨と汗でかなり濡れる中しごかれるやっとの思いで今夜の宿泊地ジヌーダングダに辿りつく。

夜サーダ・パサンシェルパから現地スタッフのコック、キッチンボーイなど紹介される。ナムチェ近郊の出身が多い。

このサーダーには 10 年位前のエベレスと一緒にあったサーダーだと思い出したが、当の本人は覚えていなかった。顔がごついが親切で日本語も理解し対応を心得ている良いサーダーである。



「女性のポーターも強い」



「深い渓谷の奥にグレッシャードームか」

少しは痩せるだろうと苦しみながら黙々と登る。

やっとチョムロンに着いたと思ったら、チョムロンコーラへと谷底にまた降るのである。降りたら又、

10/14 日高曇り・晴 ジヌーダングダ 7:15 発ーチョムロン-12:00 -上シヌワ 2350m-クルデイカル 2540m-15:00 バンブーへ着く。

今日の行程は地図から見ても高低差が激しい登降が待っている。チョムロンまで 400m もの高度差をひたすら 登る。汗が滴り落ちる。これで

シヌワまで階段登り、帰りが思いやられる。シヌワで飲んだレモンジュースがうまかった。

クルデイカル（2540m）を經由し宿泊地バンブーに着いたのが15:00 身体が慣れていないせいか今日も1日苦しい登降が続いた。

途中グルン族特有の入母屋造りの大きな家と軒先には丸太をくりぬいたミツバチの箱が据えられていた。このあたりから雪をかぶったマチャプチャレ（魚の尾）の岩峰が見え始める。



（内院氷河よりガールホルン6248m左端鋭峰）

他人事ながら大変だなと同情しかできないが自分自身も注意喚起する。雪崩で有名なヒンコーの洞穴を通る、岩の庇が大きく張出し、過去にも雪崩遭難があった場所だなと感慨深い、

この洞穴には以前竹囲いがあって、ロッジとして利用していた写真を見たが、今はその面影はない。今回は積雪もなく無事通り過ぎた。ヒンコーケーブルからしばらくして今日の宿泊地デウラリ（峠の意味）のロッジに着く。この頃から徐々に体も馴染んで来た様だ。

このロッジで韓国の16名の女性チームと一緒にいる。キムチパワーでパワフルである。しばし日韓交流となる。

10/15 日晴れ時々曇り バンブー7:00 発～ドバン（2600m）、ヒマラヤホテル（2920m）経由デウラリ13:00 着

バンブーは、名前どおりに竹林が多い場所。等高線に沿って高度を上げて行く。途中モディコーラの支流に橋があり、先行パーティーが苦勞している。我々は、下の石伝いに渡渉する。ここで後から来た日本人トレッカーがパスポートなど貴重品を流してしまったとのこと、



（アンナプルナサウス肩に沈む月）

10/16 日晴れ デウラリ7:53 発-マチャプチャレBC10:30 着

この地点から深い溪谷が開け始め、グレッシャードームやガンガプルナが姿を現す。

ガンガプルナの名は印象深く1971年、東斐山岳会と秀峰登高会の合同チームが三好隊長を擁して広島三郎、真庭氏などのメンバーで頂上に迫ったが直下で惜しくも撤退したことが印象深い。



（アンナプルナBCでの記念写真）

今日は行程2.5時間程の道のりであり今までの苦勞も吹き飛び写真を撮りながらのハイキング気分となる。ランチ後は高度順化を兼ねてアンナBCが見える峠まで登るも風と雲が出てきたので1時間程で引き返す。

途中の山道では冬を迎えて放牧していた羊たちを麓に降ろすため羊の大群(1000匹余)と行き交った。

また、オーストラリアから来たという8才と6歳の可愛い女の娘の家族と一緒に元気で頑張る子どもたちに逆に勇気づけられた。



(ナキウサギ)

自分たちにも同じ年齢の男の子の孫がいるが、この様には行かないだろうなとゆとりの持ち方余暇の過ごし方など、国民性の違いもあるのでしょうか。親も子供も勉強、仕事にと忙しすぎるのではないですかね。

ロッジの庭先では可愛いナキウサギ(マウンテンラビット)が忙しげに花をむしばんでいるのを写真に撮ることが出来た。ルーツは北海道のナキウサギと同じなのだろうか。その可愛らしい仕草に思わず笑

みがこぼれる。夜、背後にマチャプチャレの岩峰が月明かりに映えて素晴らしかった。

10/17 日晴れ マチャプチャレBC4:30 発アンナプルナBC6:30 着



(旭日のアンナサウスを背に)

2 時間程周辺トレック、当初はABC (アンナプルナBC) で 2 泊する予定だったが、帰りの行程を考えて天候が よく、良い写真が撮れば 1 泊として帰りの行程を余裕を持って下るとのことで 1 泊泊まりとなった。

その為、朝焼けのアンナプルナ山群を撮るため、夜明け前の午前 4 時 30 分にヘッドランプを付けて ABC を目指す。草原上の登山道を辿り、峠からアン



(アンナプルナBCロッジ)

ナ内院のロッジの明かりを確認し徐々に高度を上げて行く。2 時間程でロッジに到着する。ここには 4 軒ほどのロッジが建っていて 2 時間程でロッジに到着する。

各国から多くのトレッカーが来ていたが予約していない客は泊まれず食堂に寝ていた。

マチャプチャレを背景に正面にはアンナ 1 峰 (8091m)、アンナサウス (7219m)、フアング (7647m)、背後にはマチャプチャレ (6993m)、の三角形のピークとそれに連なるアンナプルナ III 峰 (7555m) の山々が連なりまさに 360 度の素晴ら



(アンナプルナサウス (7219m))

しい展望を望むことが出来て久々にヒマラヤジャイアントの大伽藍を満喫することが出来た。



(アンナBCからマチャブチャレの連峰俯瞰)

会員、家族にも見せてあげたいものだと強く思う。

あまりトレーニングもせず苦労しながらも74才80kgの五体で（映画俳優ハリソンフォード氏と？）まさに修行の境地でもあった。今回のツアーに参加された方々、妻共々にこの景観を見ることが出来た幸運にも感謝したい。あとはのんびり怪我をしないで下るだけだと思うと気持ちにも余裕が出てくる。



10/18 日晴れ時々雲 アンナBCで朝日に映える写真を撮って9:00 発-デウラリ 13:15 着ロッジ泊

朝早くアンナプルナサウスの左肩にかかる月が輝いていた。その月が山の陰に沈むとアンナプルナI峰に金色の朝日が輝き、その光が徐々に周りの峰々に降りてくる。まさに荘厳そのものしばし声を失い只々熱中して見入るばかりである。周りのトレッカーたちも感動の声を上げていた。こんな素晴らしい景観は久しぶりに味わうことが出来た。すべてのものに感謝の思いを強くする。後を振り向けばマチャブチャレ、アンナIII峰からガンガプルナに続く峰々が丁度日陰の中に聳えていて、これもまた神々しいほど荘厳である。

ABCを9時に出てのんびりとMBCに向かう、目の前にはマチャブチャレが聳え、まるでスイスのマッターホルンのように聳えている。マチャのBCロッジで昼食を摂りモディコーラに沿ってデウラリに下る。

10/19日 晴時々雲 デウラリ6:45発-ヒマラヤホテル8:00-バンブー11:45-シヌワ 13:00 着

デウラリからヒンコーケープを通過しヒマラヤホテル、途中流れのきつい川を飛び石伝いに渡渉したりして元来た道を登下降しながらまた、長いトラバースをのんびりと歩く。ヤギの一群が道沿いに居て、道端ではまさに今生まれたばかりの赤ちゃんの羊が親に見守られて立ち上がろうとしている様子は自然に向き合って必死に生きようとする自然界の厳しさの一端を感じる。竹林の多いバンブーを過ぎ山道を登ってシヌワに着く。途中峠で振舞われて飲んだオレンジジュースとビスケットが美味しく感じた。



(着飾った村人によるネパールダンス)

道端には菊やブーゲンビリア、レモンの木・ゼラニウム、マリーゴールド、ペニチュアなどの色とりどりの花が沢山咲いていて我々の目を楽しませてくれる。夜シヌワの子ども連れの子も30人ほどが集まって、ネパールの歌と踊りを披露してくれた。花の首飾りを我々に掛けてくれ、

赤ちゃんを連れて若いお母さんも何人かいて、みんなきれいな衣装を着飾りお化粧をしていて、昼間見る村人の姿とは全然違って美しく見えた。太鼓で拍子を取りながら暗い電灯の下できらびやかに歌と踊りを披露してくれる。聞き覚えのあるレッスンピリリの歌と踊りも聞くことが出来て、長い旅の疲れを忘れさせてくれた夜であった。集まった



(艶やかな衣装で踊りも優雅)

人たちには心ばかりのチップをザル盆に入れて感謝の意を表す。その集まったお金は村の道普請などに利用するとのことだった。

村の長老と若いお母さんがしなやかに踊る姿はとても優雅で、その手踊りは中々真似できるものではないと思う。飛び入りで我々も見よう見まねで踊りに参加する。

その踊りは大変リズムカルの中にも優雅さが漂っていてなかなかよかった。



(トルカからのアンナプルナサウス)

10/20 日 晴 シヌワ7:45発—ジヌ—ダング11:00着 ロッジ泊

宿泊地シヌワから見上げるチョムロンの村はまさに深い谷を隔てて聳えている。朝のうちにこの階段をゆっくりと登って行く、途中の店屋で土産物を冷やかしながら、階段の途中にはチェックポストがある。



(可愛い村の子どもたち)

チョムロンに着くと今度は遥か下にジヌ—ダングの村が見える。また降るのである。階段の登り下りには躓いて前の人にぶつかり突き倒さない

ように十分注意が必要である。下りに疲れた頃やっとジヌ—ダングのロッジに着き一段落する。

ここから20分位下ったところに温泉が湧いているとのこと。

14年前には当会OBがここで泊まり、温泉に入っている。

サーダーパサンなど現地スタッフが温泉に入りに行ったが、帰って来るのに登り30分かかると聞くと風邪でも引いたら大変とあきらめた。



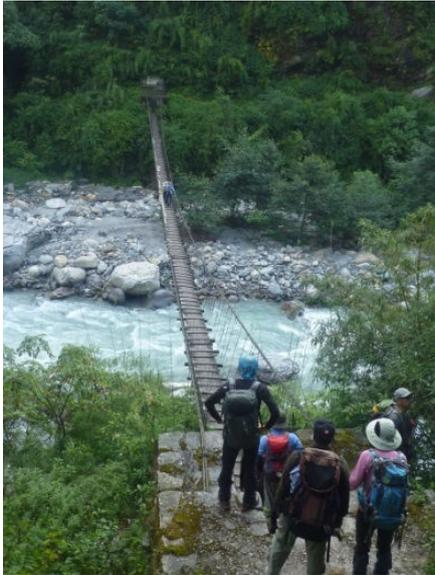
(天空に聳えるマチャプチャレ)

10/21 日 晴 ジヌ—ダング6:50発—ニューブリッジ、ラントルンを経由しトルカ13:15着 ロッジ泊

モディコーラ沿いの気持よい山道を登ったり下ったり、ラントルン越えて今日の宿泊地トルカのロッジにつく。このロッジはかなり大きく綺麗で庭も整然と整備されていた。

この地点からは、今回のトレック、スタート地点であるシワイの村が遥か下に臨むことが出来る。山の斜

面に作られた棚田も見事である。



(何回か揺れる吊り橋を渡る)



(見事な棚田・村では収穫を迎えていた)

10/22 日晴 トルカ 6:50 発-デウラリ、オーストラリアキャンプ経由カーレ 12:30 着-車で
ポカラ 13:50 着ホテルへ

さあ今日はポカラに戻る日でシャワーも浴びれると思うと疲れた身体にも一段と力が入る。



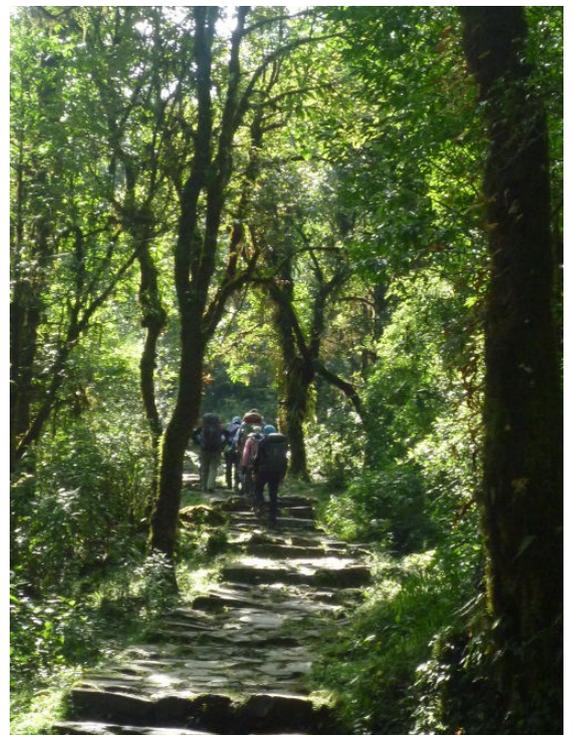
(竹を運ぶ精悍な顔の村人)

トルカを出て山道と途中まで通じている車道を交差しながらデウラリ
(峠の意味) 越える。

この道は静かな樹林帯の中を
森林浴さながらに日陰の中を
ゆっくりと歩く大変素晴らしい
道である。

途中ダンプスから来たので
あろう女学生の一団が賑やかに
通り過ぎている。ナマステ
の声も弾んでいる。

途中の丘ではピクニックを楽



(林の中爽やかな道を辿って)

しんでいる一団も垣間見ることが出来た。ポタナでダンプスへの
道を分けてオーストリアンキャンプに向かう。

分岐点である、ポタナからは昔泊まったダンプスの道が尾根
上に垣間見えて大変懐かしい。オーストリアキャンプ地でラン
チとなる。このキャンプ地は風光明媚で遥か彼方にダウラギリ
の山並みが見え、此処ならゆっくりとキャンプしたいような絶
景な避暑地でもあった。

ここからカーレに着くと、ここは既に車道で瞬く間に大型バスの車中の人となり、一路ポカラにある
ホテル・barahiに入る。此処でトレッキングの旅装を10日振りに解く。

夜は日本料理屋・「青空」で久しぶりに日本食を食す。

10/23 日晴 ホテル 8:00 発—ポカラ 10:10 飛行機で—カトマンズ 10:50 着—
車でラディソンホテル 11:40 着 午後タメル市街散策

いよいよ今日はポカラともお別れ、天気も良く、順調に機上の人となる。左側には来た時と同じ様にダウラギリなどヒマラヤのジャイアンツが聳えている。

40 分ほどでカトマンズ空港に着く。相変わらず人がいっぱいである。待ち受けていたマイクロバスでラディソンホテルに着く。荷物を整理して、午後からはタメルの街中で、遅い食事と土産物屋などを冷やかしながら買い物をする。懐かしい風景で相変わらず人混みの中を散策する。

日本で云うと宛ら渋谷か原宿の混雑であろうか。心なしか昔より排気ガスも少なくなった気がする。ホテルに戻り夜食はホテルの前にあるチョウメンチャーハン、モモなどチベタン料理を食べるがその量も多い。

10/24 日晴 日中一日カトマンズ市内、世界遺産ダルバール広場など散策、クマリとも会う、
深夜 23:00 ドラゴン航空でダッカ経由香港へ此処でキャセイ航空に乗換えて成田へ

市内観光などツアーもあったが、個人的にタクシーで気になっていたタルバール広場に行くこととした。タルバール広場は、世界遺産である大きな仏等はなどは倒壊して無くなっていたが、支柱などで倒壊を防ぐため復旧工事も進んでいた。周辺の住家などは想像していたより被害が意外に少なかったのではないかという気がした。丁度 11 時頃「クマリの館」に入った処、窓からクマリ(少女の生き仏)が現れ祝福していたのに出会う。メラ峰登山の帰りに出会った同じ少女だろうか、幾分成長した様にした。

土産物を買う。午後からホテルの前に有る刺繍屋で木綿のシャツを買ってネパール語で石川のイニシャルを刺繍して貰う。



飛行機は深夜便なので夕食は戸隠でソバ打ちの修業をした店主がカトマンズ郊外に蕎麦屋を開き、その店に案内され夕食とする。

中々美味しい蕎麦定食が出て天麩羅など蕎麦もこしがあって大変美味しかった。当会のOBの人達もこの店で食べたのではないかと。

疲れも出て眠気が出てくる頃多くの思い出を作ってくれたカトマンズ空港を後にする。

(現地スタッフともここで別れお世話になりました) 空港の屋根も棚田を模して作られているとのこと、自家発電も整った空港も一段と整備され年々良くなってきている様だ。



ハヌマンドカのカラバイラヴ像



(修復中の仏塔)



(倒壊したタレジュ・テンブル)



(ダルパール広場・修復が進む寺院)

10/25日 曇り 成田 16:00 着 リムジンバスでYCAT、横浜経由帰宅

来た時と同じドラゴン航空でダッカ経由香港へ、此処で島根の人とお別れし、キャセイ航空で成田に着き、無事日本の土を踏むことが出来た。同行した6人の皆さん、ツアーリーダーの方ともここで別れ、参加された方々もどなたも中高年者とはいえ強者揃い、ネパールには6回目とか、帰国したら年内に韓国など2ヶ国に行くとか、正月にはシャモニーにスキーに行くとか活動的な方々ばかりで年齢を感じさせないバイタリティーを感じた。また、どこかの山で再会できることを願いながらお別れする。大変お世話様でした。ツアーリーダーにも大変お世話になりました。

後はYCATで横浜経由自宅に戻る。年のせいにはしたくないが、長旅は以前より疲れた思いがしてきた。落ち着いたら歩ける内にまたどこかの山にのんびりと出掛けたいものだ。

ガンドルンの村では車が通る道路を延長させないとの事、道路を作ることで村の生活が乱されることを望まない判断をしたのだろうか。村人たちが今まで通りの静かな生活を送れることを願わずにはいられない。このトレッキングでネパールの人達とのふれあいを通して多くの発見があった、明るく心優しい人達、元気湧刺とした子どもたち、世界各国の人達が集まってくる国ネパールには私達が忘れてしまった昔の古き良き文化、優しさなどを思い起こさせてくれる素地が残されているのだろう。

体重も4kgほど落ちた。良いトレーニングとなった。リバウンドしないように心掛けよう。

ナマステ 終わり。

記録 石川 誠

